

2024年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園幼稚園】

1 めざす幼稚園像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

- ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
 - ・ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念を理解し、実践に生かせるように教員研修に努める。
 - ・「謙虚」と「柔和」に基づく教育活動の重要性を認識し、日々の活動の中に意識付ける。
- 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”（「何も恐れることはない」）を実感できるような教育環境を創造する。
 - ・子どもたちに必要な能力を理解し、その能力育成のために必要な教育環境の整備に努める。
 - ・安心安全な生活を目指すうえで、様々な危機管理意識を醸成する。
 - ・教職員自らの資質向上、コンプライアンスの向上に向けた研修の機会をもつ。
- 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
 - ・園内外の研修の深化充実を図り、獲得したスキルの伝達講習を実践する。
 - ・育てたい子ども像を共有し、それを目指す園内研修テーマを策定し実践に活かす。
- 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
 - ・他校種、総合スポーツ教育センターなどとの連携の形を模索し、学園全体の案件について、教職員間の意見交換の場を設定する。
- 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
 - ・城星学園を取り巻く様々な支援組織・団体との連携を深める。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<評価が相対的に高かった10項目> ○幼稚園行事の楽しさ ○緊急時の適切な情報伝達 ○教育目標への共感 ○子どもの興味関心喚起と意欲的な取組み ○教職員の気持ち良い挨拶 ○個人情報の適切な取扱い ○教育方針への共感 ○教職員の接し方、信頼関係 ○施設設備の安全管理 ○基本的生活習慣が身につく生活指導 （すべて満足度96%以上）	学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会（保護者）・各学校種管理職・評議員（学識経験者）により構成されている。2024年度学校評価に関する検討は2025年4月17日（木）に行われた。 <意見まとめ> ・学校評価アンケートの回答率は若干下がっているが、それでも80%というのは園に対する満足度が高いことを示しているのではないかと。 ・アンケートにおける平均満足度が93%を超えており、例年同様非常に高い状態を維持できていると感じられる。

ア. 自己評価アンケート結果と分析(続き)	イ. 学校関係者評価委員会からの意見(続き)
＜評価が相対的に低かった5項目＞ ○子どもの課題認識・解決努力 ○子どもの積極性・自信 ○子どもの判断力・行動力 ○子どもの応用力の養成 ○小学校との活動の連携 (満足度72～90%)	・アンケート評点は全体的に高いものの、教育方針に沿った教育実践ができているかどうかとの項目については前年度より相対的順位が下がっている。改めて教育内容の再点検を行い、理念に沿った教育保育活動の実践に努められたい。 ・法人全体での本年度の避難訓練は雨天のため中止となったが、その後に校種ごとに実施された点は評価できる。
＜アンケート総括＞ 【満足度に関する結果】 上位9項目について満足との回答が97%を超えており、例年同様高い評価が得られている。ただし、項目ごとの順位には若干の変動があり、前年度は上位10項目に含まれていた安全教育・幼稚園全体への満足・教職員同士の協力・教育方針に沿った教育実践が外れ、逆に前年度は入っていなかった行事の楽しさ・興味関心の喚起と取組・教職員の態度と信頼関係・施設設備の安全管理が本年度は上位となっている。 下位10項目については、相対的には低い順位とはなっているが、満足との回答が85%未満であるのは2項目のみとなっており、評価自体は高い数値となっている。なお、前年度は下位10項目に含まれていなかった登降園方法・感性が順位を下げている。 【幼稚園に期待することに関する結果】 幼稚園に期待することは前年度の結果とほとんど変化がない。「思いやり」や「感謝」といった情意面での育ちが引き続き強く期待されていることを覚えておきたい。なお下位5項目として、前年度は「他校種との積極的な連携」が含まれていたが、本年度は期待する割合が若干増加し、下位5項目から外れた。他校種連携について保護者各位の期待が増している点に留意したい。	・学園全体における本年度の基本方針の一つに「安全委員会・衛生委員会の活動を通じて得られた知見を教職員全体で迅速に共有する」とあるが、共有するシステムは稼働しているものの、個々の教職員まで共有できているかという意味ではまだ十分ではないようにも感じられる。 ・教員による評価が振るわなかったものとして、施設整備に関する項目が挙げられる。これはおそらく保育室の狭さや設備の古さなどが要因と考えられる。トイレにはエアコンが入りかなり快適になったが、夏の暑さへのさらなる対策は必要かもしれない。 ・園児の感じ方と保護者の感じ方にはギャップがある可能性もあり、アンケート結果の改善に向けた活動は重要ではあるものの、より重視したいのは保護者と学園の相互理解である。園が努力し実践していることを保護者にもっと知ってもらうことが必要なのではないか。 ・校種間連携を深める意味も込めて、高校生が幼稚園に来てともに活動する時間が確保されることを期待している。 ・校種間の交流としては教員同士の交流が最重要であるが、子ども同士の交流も重視すべきである。特に幼小の交流は重要性が高まっており、教育課程を通じた連携は必須であろう。 ・子どもたちも保護者も悩みを抱えやすい時代であるのだから、本校の強みの一つである「ドン・ボスコ子ども未来センター」の積極活用を図っていただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

※ 満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

※ 「年度評価」の記載内容は学校評価アンケートの結果を分析したうえで、当該目標にかかる活動全般を評価したものである。満足度85%以上で○、同60%以上で△、それ未満で×の表記としている。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	・ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念を理解し、実践に生かせるように教員研修に努める。 ・「謙虚」と「柔和」に基づく教育活動の重要性を認識し、日々の活動の中に意識付ける。	カトリック精神に基づいた保育活動の実践と、さらなる深化充実に向け園内外の研修を学期に1回以上もつ。	サレジオ家族としての自覚と意識改革を前提とした日々の行動変容の出現	幼稚園は、教育方針に沿った教育を行っている。(満足度94.5%) 子どもは、毎日幼稚園に行くのを楽しみにしている。(満足度93.6%)	○保育大会で、他のカトリック園の取組を知ることで、自園の宗教教育の取組を見直し次年度への課題(場所・方法)を確認することができた。
		「予防教育法」の理解を深めるための研修内容を吟味し、日々の保育活動に活かすことができているかどうかの振り返りを行う。	学園の特長の発信による保護者との信頼関係構築かつ子供の育成への寄与	幼稚園は、保護者に対してキリスト教主義に基づく教育方針の説明をわかりやすく行っている。(満足度92.7%) 子どもは、自分の気持ちや考えを進んで述べ、自信を持って行動できるようになった。(満足度89.0%)	○折に触れ、ドンボスコの教育を確認し、子ども一人ひとりを全員で見守り、多面的にとらえることで、個性や思いを大切にしたい保育を進めてきた。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	・子どもたちに必要な能力を理解し、その能力育成のために必要な教育環境の整備に努める。	主体性や創造性、協調性などを育むための教育内容や教育環境を他園などを参考にしながら、取り入れる。	さらに子ども一人ひとりの思いや願いを大切にしたい教育内容への変容	子どもは、自己の課題に向けて全力で挑み、解決しようと努力できるようになった。(満足度89.4%) 子どもは、感謝の気持ちを大切にしている。(満足度95.4%)	○主体性や個性を育むための環境整備については、様々な制約の中ではあるが、今後さらに工夫していく必要がある。
	・安心安全な生活を目指すうえで、様々な危機管理意識を醸成する。	様々な防災・防犯訓練を実施し、教職員・園児の危機管理意識の向上を図る。	教職員・園児の危機管理に対する意識改革と日常の行動変容	幼稚園は、子ども達に安全教育を行っている。(満足度95.9%) 幼稚園の施設・設備は、安全管理が行き届いている。(満足度97.2%)	○避難訓練や安全教育を実施することで、教職員の危機管理意識を高めることができた。遊具などの点検も計画的に行い事故防止に努めた。
	・教職員自らの資質向上、コンプライアンスの向上に向けた研修の機会をもつ。	業務のICT化を進め、指導計画のデータ化を進める。個人情報などの取り扱いについてコンプライアンス意識を向上させる。	時間外勤務の削減、働き方改革の推進	-	△ICT化を進め、会議も少しずつペーパーレスで行うようにしたが、まだまだである。時間外勤務は減少しているが、行事の準備に、多くの時間を要しており今後の課題である。

中期的 目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価ア ンケート項目及び満足 度	年度評価
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	・園内外の研修の深化充実を図り、獲得したスキルの伝達講習を実践する。 ・育てたい子ども像を共有し、それを目指す園内研修テーマを策定し実践に活かす。	カトリック園の研修や外部の研修に積極的に参加し研修を深める。全教職員のスキル獲得を目指して、伝達講習会をもつ。	園児一人ひとりが神のまなざしのもとで誠実に行動し善を選び取れる人格形成の基礎作り	保護者として、子どもをこの幼稚園に通わせて満足している。 (満足度95.9%) 教職員の心配りが行き届いている。 (満足度95.0%)	○個別の参加研修の伝達講習を行い、全体で共有するとともに、オンデマンド研修を紹介し、各自のスキルアップにつながるようにした。
		自己肯定感・コミュニケーション能力を育む保育内容に照準を合わせた園内研修テーマを策定し公開保育を伴った園内研修をもつ。	園児の主体性や協調性の醸成のための保育内容の改革	子どもは、いろいろな活動に興味や関心を持ち、意欲的に取り組むようになった。 (満足度97.7%) 子どもは、自己の課題に向けて全力で挑み、解決しようとするようになった。 (満足度89.4%)	
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	・他校種、総合スポーツ教育センターなどとの連携の形を模索し、学園全体の案件について、教職員間の意見交換の場を設定する。	各校種の行事や日常の活動(保育内容)の中で積極的に交流の場を企画する。	他校種との交流による親近感やあこがれの心情の醸成内部進学の拡充	幼稚園は、小学校と連携した活動を行っている。 (満足度72.1%)	△校種間の意識や課題、文化などの違いから、積極的に互いのことを知る機会が十分とは言えない。園児児童生徒間の交流も図る必要がある。
		教職員間の意思疎通を図るべく校種の垣根を超えた場づくりに努める。	各校種の課題を共有し協働的な解決方法の模索	教職員は、協力し合って保育を行っている。 (満足度95.4%)	○一部の教員が委員会などで他校種との交流を持っているが、時間の問題などで、自主的な研修会に幼稚園として参加が少ないことが課題である。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	・城星学園を取り巻く様々な支援組織・団体との連携を深める。	学園、幼稚園としての社会的立場を自覚し、社会に貢献する一員として教育活動に務める。2歳児と保護者に向けた体験活動を計画する。	地域に幼稚園の教育活動を発信し、認知度の向上	-	△園の教育活動を広く周知するために、行事や日々の取組をホームページにアップし広報に努めている。今後、0～2歳に向けた広報活動を検討していく必要がある。